

# 議 事 4

令和5年度地域公共交通確保維持改善事業の  
自己評価について

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月12日

協議会名： 各務原市地域公共交通会議

評価対象事業名： 生活交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統確保維持計画)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
岐阜乗合自動車株式会社	ふれあいバス蘇原線	平成27年10月より運行しており、パターンダイヤや商業施設、総合病院への乗り入れを維持し、市内ふれあいバスで最も利用者数が多い路線となっている。	A 計画どおり事業は適切に実施	A 【目標値】 乗車人数49,000人/年 7.6人/便以上 【結果】 乗車人数52,978人/年 7.8人/便	・前年比3,897人増(7.9%)となり、目標値を達成した。 ・R5年10月にふれあいバス那加線を増便・パターンダイヤ化したことで、同路線からの乗り継ぎ利便性も高まることから、今後も継続的に運行し、改正後の動向を見ていく。
岐阜乗合自動車株式会社	ふれあいバス東西線	通院等の利用が多い利用実態を踏まえ、令和元年10月より17時以降の利用が少ない便を廃止し、継続的に運行。総合病院や大型商業施設等、一定の利用があった。	A 計画どおり事業は適切に実施	A 【目標値】 乗車人数15,000人/年 7.6人/便)以上 【結果】 乗車人数 18,929人/年 9.7人/便	・乗車人数が増加し、運行本数は少ないものの、1便当たりの乗車数が昨年より2.1人増加。 ・総合病院や大型商業施設への利用が多い便であり、今後も継続的に運行し、利用者の通院・買い物等、日常の移動手段を確保する。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月12日

協議会名:	各務原市地域公共交通会議
-------	--------------

評価対象事業名:	生活交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統確保維持計画)
----------	--------------------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本市総合計画では「笑顔があふれる元気なまち」を将来都市像として掲げ、市民やさまざまな団体などとのつながりを大切に、すべての人が生きがいを持っていきいきと輝く都市の実現を目指しており、公共交通については、多様な交通手段により地域住民が利用しやすい公共交通ネットワークを形成することとしている。</p> <p>地域公共交通網形成計画後期計画においては、「公共交通を利用して、皆が健康で、安心かつ快適に暮らせるまち」を交通の将来都市像としており、その実現のためには、市民、交通事業者、行政が一体となって、持続可能な公共交通ネットワークを形成、維持する必要がある。</p>
-----------------------------	---

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和6年1月12日

協議会名: 各務原市地域公共交通会議

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は 地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
【事業内容及び結果概要を記載】	A・B・C 評価	【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】
<p><b>【事業内容】</b>            1.公共交通を取り巻く現状の整理            2.地域公共交通網形成計画 後期計画の評価・課題整理            3.各務原市地域公共交通計画案の検討            4.地域公共交通会議やパブリックコメントの意見を反映した計画の作成</p> <p><b>【結果概要】</b>            1.公共交通を取り巻く社会情勢や動向、市の上位・関連計画による公共交通の位置付けや、市内の土地利用状況等をふまえて現況把握を行った。            2.市民アンケート調査の結果を分析し、その結果やこれまでに実施した調査事業、公共交通の利用実態等をもとに、後期計画中の事業の評価・分析を行い、課題を整理した。            3.今後の公共交通のあり方や基本方針を地域公共交通会議で協議した。また、具体的な取り組みや評価指標を検討し、各務原市地域公共交通計画案を作成した。            4.今後、計画案について地域公共交通会議にて協議、パブリックコメントを実施し、意見を反映した計画を策定する。</p>	A	<p style="text-align: center;">事業は適切に実施している</p> <p><b>【事業名】</b>            各務原市地域公共交通計画策定支援事業  <b>【事業内容】</b>            ・市及び地域公共交通の現状・課題の整理            ・市民アンケート結果の分析            ・地域公共交通計画(案)のとりまとめ  <b>【実施時期】</b>            完了予定日: 令和6年3月31日</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月12日

協議会名:	各務原市地域公共交通会議
-------	--------------

評価対象事業名:	生活交通確保維持改善事業(計画策定事業)
----------	----------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>現在、地域公共交通網形成計画後期計画に基づき、「公共交通を利用して、皆が健康で、安心かつ快適に暮らせるまち」の実現にむけ、市民、交通事業者、行政が一体となって取り組んでいる。</p> <p>市民生活において重要な役割を担う公共交通を確保・維持していくため、これまで実施してきた地域公共交通網形成計画の事業評価をふまえ、地域の現状や地域公共交通の課題を整理して、地域の実情や利用者のニーズに応じた利便性の高い公共交通ネットワークを維持していくため、地域公共交通計画を策定する。</p>
-----------------------------	--

令和5年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価  
概要（全体）

## 各務原市地域公共交通会議

平成25年11月25日設置

令和27年 8月 各務原市地域公共交通網形成計画 策定  
令和 2年 4月 各務原市地域公共交通網形成計画後期計画 策定

（計画期間：令和2年度～令和6年度）

令和 4年 6月 2日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

令和 6年 1月 日 令和5年度評価結果送付

## ■ 各務原市の地域特性、背景

- ・ 市域は87.81km<sup>2</sup>で、市域の多くが平地
- ・ 人口は145,039人（令和5年11月1日時点）、人口減少や高齢化が進行

## ■ 計画の方針等

基本理念：「公共交通を利用して、皆が健康で、安心かつ快適に暮らせるまち」

計画期間： 令和2年4月～令和7年3月

※基本方針は次頁にて取り組み状況と併せて記載

## ■ 各務原市の公共交通ネットワーク

- ・ 鉄道を軸とした公共交通網
- ・ 駅から遠い地域は幹線系統バスが運行
- ・ 市全域を乗用タクシーが運行
- ・ 民間路線を補完する生活交通として  
コミュニティバス等を運行



■ 地域間幹線系統  
■ フィーダー系統

### 基本方針1. 交通体系の姿を共有し、市民・交通事業者・行政の三位一体の取り組みの推進

#### ●ふれあいバス等懇談会

毎年、地域をまわり、市民と公共交通の現状や方針を共有し、意見交換を行っている  
R5年は、市内11会場で全12回開催。参加者107人

➔ 市民の意見や要望を直接聴き、ふれあいバス等の改正や取り組みの参考とするほか、施策や取り組みの定性的な評価としている

#### ●複数タクシー事業者と連携したチョイソコかかみがはらの運行、**チョイソコ研究会**

市内タクシー事業者と株式会社アイシン（システム・オペレーション担当）との意見交換を重ねながら、チョイソコの運行について検討

#### ●路線バス再編を市と岐阜バスとで検討する**ワーキンググループ**

運転士不足のため路線の維持が困難となる中、路線バスを廃止しないための手立てを事業者と行政がともに考え、地域住民への説明も共同で行った（新・緑苑八木山線）

➔ 交通事業者との協働により市民の移動手段を確保

### 基本方針2. 各公共交通が連携を図り、一体的なネットワークを維持

#### ●交通結節点の**乗降環境整備**

ふれあいバスの増便に対応するため、各務原市役所前駅バスベイを拡張  
新那加駅・蘇原駅の駅前広場整備完了により、ふれあいバスを駅に乗り入れ

#### ●**交通系ICカードの利用環境整備**

岐阜バスの路線バス、ふれあいバスで**交通系ICカード**が利用可能に（R5年度中）  
市が運賃箱・システム改修費を補助



### 基本方針3. 増大・多様化するニーズに応じたサービス提供

- ふれあいバスの改正  
立地適正化計画に定めた居住誘導区域を運行するふれあいバス那加線・鵜沼線を、1時間に1本の**パターンダイヤ化**（R5年10月～）  
➔ 分かりやすいダイヤとし、増便により乗り継ぎの機会を増やした
- チョイソコかかみがはら鵜沼南エリア②の追加（R5年10月～）、**チョイソコ利用相談会**  
チョイソコの運行エリア拡大に向け、地域住民向けの利用相談会を実施  
チョイソコ会員数 R3年333人→R4年635人→R5年1,129人（いずれも9月末現在）  
➔ 会員数、利用者数ともに順調に伸びている。他の地域からもエリア拡大の要望があるが、ニーズや移動の実態をふまえ、地域の実情に合わせた公共交通を設定していく
- チョイソコおでかけイベント**（アイシン主催・市協力）  
月に1回、高齢者のお出かけを促すイベントを開催。チョイソコ停留所に集合し、スポンサー企業とのコラボレーション企画やふれあいバスに乗って市内施設へ行くプラン等  
➔ おでかけ促進のほか、普段車で移動している方が公共交通を利用するきっかけになった

### 基本方針4. 将来を見据えた持続可能な公共交通の供給体制の確保・維持

- デジタルチケット**「おでかけきっぷ」  
名古屋鉄道・岐阜バス・観光施設（オアシスパーク・岐阜かかみがはら航空宇宙博物館）と連携し、「CentX」アプリ内で販売（R5年10月30日～12月22日の平日）  
利用は平日限定とし、岐阜県等が実施する「ぎふ旅コイン」を付与。SNS中心で周知  
➔ 周知方法や利用日の見直しが必要

## ■ 網計画（後期基本計画）で示す成果指標・達成状況

内容	現状 (計画策定時)	目標	達成状況(R4年度) ※はR5年調査
1ヶ月に1回以上公共交通を利用する人の割合	35%	40%以上	34% (未達成)※
市内公共交通機関の利用者数	1,774万人	1,807万人	1,497万人(未達成)
住民参加型の利用促進の取り組み件数	7件	10件	23件 (達成)
公共交通利用の不満割合	20%	現状未満	22% (未達成)※

## ■ ふれあいバス路線（区域）ごとの実績

評価指標 A：サービス維持 B：路線継続 C：路線見直しの必要性有 (国庫補助対象路線は**橙色**)

種別	路線	利用者数 (人)	乗合率	補助	評価指標	評価
ふれあい バス	鵜沼線	44,601 (+3,612)	8.0 (+0.7)	県補助		A
	那加線	31,711 (+3,665)	8.8 (+1.1)	県補助		A
	稲羽線	42,871 (+5,650)	9.9 (+1.4)	県補助		A
	川島線	41,539 ( +836)	12.3 (+0.3)	地域間幹線		A
	蘇原線	52,978 (+3,897)	7.8 (+0.6)	フィーダー	49,000人/年、7.6人/便	A
	東西線	18,929 (+1,597)	9.7 (+1.5)	フィーダー	15,000人/年、7.6人/便	A
	朝夕便	2,217 ( -257)	4.5 (-0.6)	県補助		A
チョイソコかかみがはら	8,322 (+2,041)	1.24 (-0.02)			A	
全体	243,168 (+21,041)	バス：8.7 (+0.8)			A	

※ふれあいタクシーが令和4年9月で運行を終了し、チョイソコへ移行。  
 チョイソコかかみがはらの前年利用者数には、ふれあいタクシー分を含む。

## ■ 成果指標に対する分析

### ● 1ヶ月に1回以上公共交通を利用する人の割合

R5年7月に実施した市民アンケート結果より算出。回答者には、主に自家用車で移動している人も含まれる。利用しない理由は、鉄道・バスともに「行きたい場所に行けない」との回答が多い。公共交通は自家用車のように誰もがどこへでも直接行けるわけではないため、乗り継ぎを考慮したルート・ダイヤの設定や乗り継ぎ環境の整備など、利便性の向上が必要。

### ● 市内公共交通機関の利用者数

新型コロナウイルス感染症の流行により、外出や公共交通の利用を控える傾向、テレワークやオンライン授業などにより利用機会が減少し、利用者が減った。ふれあいバス・チョイソコかかみがはらの利用は回復したが、鉄道や路線バスは生活様式の変化などの影響もあり、利用者が戻っていない。今後は現状以上を目指して利用促進に取り組む。

### ● 住民参加型の利用促進の取り組み件数

チョイソコお出かけイベントや、フレイル予防クイズなどの車内掲示、マルシェや地域イベントでのPR、CentXを活用したおでかけきっぷの販売など、利用促進事業を行った。コロナ禍には人が集まるイベントの実施が難しく開催できなかったが、その他の年は目標を達成している。今後も、関係者と連携した利用促進、公共交通利用の機会創出に取り組んでいく。

### ● 公共交通利用の不満割合

交通機関別にみると、ふれあいバスの不満割合が最も高く、日常生活での公共交通利用への関心の高まりがうかがえる。目標は達成できなかったが、引き続き取り組みを進め、利用しやすい公共交通を目指す。

現状の到達状況・課題	今後の取組方針
<p>市内公共交通機関の利用者数は、鉄道・路線バスで減少 ふれあいバス・チョイソコは高齢者の日常の移動手段として、利用が増えている</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 地域公共交通を維持するため、公共交通を利用する層を増やす取組を実施</li><li>● CentX等のアプリやウェブを通して購入できるデジタルチケットを活用して、さまざまな企画券を発行し、利用を促進する</li><li>● さらなる高齢化を見据え、公共交通を使って移動できる高齢者を増やすため、フレイル予防やお出かけを促す企画を積極的に実施する</li></ul>
<p>住民参加型の利用促進の取り組み件数は目標を達成 公共交通を維持するためには、引き続き利用促進に取り組む必要がある</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 買い物や通院、観光等、目的に合わせて、商業施設や観光施設等、様々な主体と連携して目的と一体となった利用促進施策を実施する</li><li>● 地域に根差したサービスとするため、地域住民や住民主体の団体と連携して公共交通施策のPRや利用促進事業に取り組む</li></ul>
<p>ふれあいバスの不満割合が高い一方で、満足と感じている人の割合も増えている</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>● ふれあいバス等懇談会を継続的に各地域で開催し、意見や要望の内容を改正や取組の参考とするほか、施策や取組の定性的な評価を行う</li><li>● アンケート等の定性的な評価を実施し、サービスの適正化を図る</li><li>● 鉄道やバス同士の乗り継ぎ拠点となる乗降場の待合環境の整備や、乗り継ぎを考慮したダイヤを検討し、利便性を高める</li></ul>

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	市やバス、タクシーに加え、鉄道や観光施設などと連携した「共創」による持続可能な地域公共交通の確保・充実が更に推進されることを期待します。	鉄道・バス・観光施設が連携し、交通と施設入場料・割引券がセットになったチケットを販売して利用促進に取り組んだ。	今後も、公共交通利用のきっかけとなるような企画を、交通事業者、観光施設のほか、地域事業者等の協力を得て実施していく。
	交通以外の分野（教育・医療・介護など）も含めた地域の多様な関係者と協議しながら、地域に合った適材適所の交通サービスの実現に向けて、地域が主体となって新たな交通計画が策定されることを期待します。	作成を進めている新たな公共交通計画では、公共交通を維持していくため、地域住民と交通事業者、行政が一体となって取り組み、多様な主体が連携・協働して利用促進策を実施することとしている。	福祉や都市計画、まちづくり等、交通以外の分野とも情報を共有しながら、地域の実情にあった持続可能な公共交通をデザインし、公共交通を使って住み続けることができるまちを目指す。
前々回	川島地区から笠松駅等をつなぐ新たなバス路線について、継続的な運行が実現するよう運行事業者と連携した取り組みがなされることを期待します。	市内観光施設と連携したデジタルチケット企画を通して、路線の周知と利用促進に取り組んだ。	継続的な利用促進や周知活動を実施するほか、交通系ICカードの利用環境整備に取り組み、鉄道との乗り継ぎ利用の利便向上を図る。
	チョイソコについては、引き続きタクシー事業者やスポンサー企業などと連携してより利便性の高いものとしていただくことを期待します。	チョイソコのエリア追加により新たなスポンサーが増えた。また、スポンサー企業と連携したお出かけイベントも開催した。	引き続きスポンサーや地域主体と連携した利用促進に取り組み、地域に根付いたサービス展開を目指す。
	市内を運行する地域間幹線系統のうち輸送量が低迷している系統について、現状や問題意識を県・関係市町村・関係事業者と共有すると共に、当該系統の必要性に応じ、利用促進や系統維持に向け県や関係者と連携して取組を実施されるよう期待します。	県公共交通協議会等へ出席し、情報交換を図ったほか、デジタルチケット企画では国、県、笠松町等への周知依頼等も実施しながら連携した事業に取り組んだ。	県公共交通協議会等にて継続的に情報交換や意見交換を実施し、情報の把握に努める。 また、今後の利用促進等においても国、県、関係者への情報展開や協力を仰ぐ。

※前回：令和5年3月10日、前々回：令和4年3月4日

主な事業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
公共交通会議			●				●			●		●	
地域公共交通 計画策定	市民アンケート調査		→					計画策定					→
利用促進	おでかけイベント（月1回）				CentX デジタルチケット								→
各主体との意見交換		ふれあいバス等懇談会		→		●							
		チョイソコ利用相談会		→									
ふれあいバス等 見直し	ふれあいバス・チョイソコの改正 準備・調整					バス改正・チョイソコ新エリア運行							→

**【協議会の実施状況】**

- 第38回協議会（令和5年度第1回） 荒天のため書面決議  
 主な議題：地域公共交通確保維持改善事業計画、事業の報告及び決算、事業計画及び予算、ふれあいバスのダイヤ改正、チョイソコかかみがはら鷺沼南エリアの拡充
- 第39回協議会（令和5年度第2回） 令和5年10月26日 決議  
 主な議題：地域公共交通計画の策定について、市民アンケートの結果報告
- 第40回協議会（令和5年度第3回） 令和6年1月12日 決議  
 主な議題：地域公共交通計画の策定について、路線バスの廃止・新設、自己評価
- 第41回協議会（令和5年度第4回） 予定  
 主な議題：地域公共交通計画の策定について